

城原川だより 77号 城原川を考える会

【ダムに拠らない治水をめざすには】

2018 8. 24日(金)

次回発行予定 2018年 9月21日(金)



ダム頼みでは危ない現実を目の当たりに

今回の豪雨では、ダムの緊急放流が何カ所も実施されました。放流を開始する時の伝達方法が国交省と地元自治体と住民の間でその危機感の自覚の差があったことが浮かび上がってきています。また、ダムが災害を助長したという意見さえ出てきています。（これは以前から城原川ダムでも起こりうることだと指摘していたことですが）水源連（水源開発問題全国連絡会）の嶋津暉之氏の文章を紹介します。

今回の記録的な豪雨では、愛媛県・肱川の国土交通省の野村ダム、鹿野川ダムの放流がダム下流域の被害を大きく拡大しました。

そのことに関して、次のように、ダムがなければ、もっと大きな被害が出ていたというダム擁護論が出ています。

京都大防災研究所の中北英一教授(水文気象学)は、「上流からの流れをダムで調整し、下流に流しているのだから、ダムがなければもっと大量の水が下流に流れ、大きな被害が出ていたのは間違いない」と話す。」しかし、これは憶測で語った根拠のない話です。

野村ダムは、ダム流入量が300 m³/秒から1400 m³/秒まで約4時間半で上昇しているのに対して、放流量は1時間足らずで300 m³/秒から1400 m³/秒まで上昇しています。たった数十分で(放流量)が1000 m³/秒も増加している時間帯もあります。

鹿野川ダムは、ダム流入量が600 m³/秒から3500 m³/秒まで約5時間で上昇しているのに対して、放流量は約2時間で600 m³/秒から3500 m³/秒まで上昇しています。たった数十分で1500 m³/秒も増加している時間帯もあります。

このようにダムがなければ、流量の上昇が4~5時間あって避難できたのに、ダムがあるために、その放流で流量上昇時間が1~2時間に短縮され、しかも、そのうちの数十分で流量が急上昇しているため、避難することはほとんど困難な状況になってしまいました。

以上の通り、ダムとは想定外の降雨に対して無力であるだけでなく、放流量を急激に増やしてダム下流の住民を危機に陥れるものなのです。（水源連メール ダムがあるために避難の時間が失われたより）

また、東京新聞特報部7月13日付けの記事を紹介します。

西日本豪雨ではほかにも、愛媛県の肱川にある野村ダムと鹿野川ダム、京都。桂川の日吉ダムでも異常時の放水をした。

特に肱川は七日朝に氾濫し、流域の同県西予市で五人が亡くなった。氾濫の二時間半前から野村ダムが放水したことが原因の一つとみられる。

管轄する国交省四国地方整備局の渡辺健二・河川管理課長は「大雨で満タンになっていた。このままでは水量のコントロールができなくなる恐れがあった」。

放水前には、市に繰り返し連絡をしたほか、サイレンを鳴らして住民に注意を呼び掛けたという。石井啓一国交相は十日の会見で「ダムの容量は無限でなく、降雨量が甚大かつ長期化するとダムの洪水調節ができなくなってくる」と話した。

この例からはっきりするのは、想定を超える大雨が降るとダムは無力になり、洪水が防げなくなるということだ。ダム建設に反対する市民団体「水源開発問題全国連絡会」は、以前から危険性を指摘していた。鳴津暉之共同代表は「ダムは想定外の雨にはお手上げになる。決壊を防ぐために、ダム湖に入る雨水と同じ量を出すような大規模な放流をすれば、当然ながら短時間で大量の水が下流に流れる。鉄砲水を人為的につくるのと同じ。むしろダムがあることが大きなマイナスになる」と語る。

鳴津氏はダム優先の治水対策と、下流の堤防や河川敷などの整備がダムに依存した計画になっていることを批判する。ダムが計画された二十世紀と比べ、二〇〇〇年以降は豪雨が頻発し、「想定外」が起きる可能性が高まっているからだ。今後も流入量相当の水を流すことが起きるだろう。無責任な話だ」と憤る。そもそも、異常時の放水が必要なのか、疑問を持つ専門家もいる。

京都大名誉教授の今本博健氏（河川工学）は「国交省などダムを造る側は『ダムがあふれ、越流するとダム全体が決壊する。放水は必要だ』と主張するが、本当にダムの天端（ダムの最上部）から水があふれた場合に決壊するのか。そのような事例や、シミュレーションも聞いたことがない」と首をかしげる。

ダム優先の治水には反対する今本氏だが「できてしまったダムは最大限活用すべきだ」という立場。異常時の放水を決断する水位が、ダムの天端から約二～三メートル低いことから、「ここを使いきり、さらにそれでも収容しきれなければ越水させてもいいのではないか。仮に越水しても、異常時の放水よりも緩やかな流量になるはずだ」と話す。それにしても、ダムで洪水を防ぎきれないとしたら、どうやって下流を守ればいいのか。

新潟大名誉教授の大熊孝氏（河川工学）は「河川があふれても堤防を決壊させず、床上浸水を防ぐことが一大事だ。床下浸水ならば、かなりの人命が救われる。下流の堤防の強化が急務だ」と提唱。堤防のかさ上げや、川幅の拡大などは難工事となるため、「堤防の土に5%程度のセメントを混ぜることで強度を増す工法などを積極的に進めていくべきだ」

と述べる。その上で、大熊氏は住民の取り組みを求める。「現代人は洪水の危険を忘れ、『上流にダムがあるから大丈夫』と、お上に命を預けている。『豪雨は自らのところにも来る』という前提で、自分の街がどこまで浸水し、どこまでなら許容できるかまで考える。そして、行政に治水対策を求めたり、建物を床上浸水にならない構造にしたりすることも必要だ」

自然の力は強大だ。地震、津波、台風。今回の一豪雨でも思い知らされた。人間の力で抑え込もうとするのはどうなのか。想定外からは、避難するしかない。ダムにつき込んだ人手、熱意、資金の何分の一かでも防災教育と避難訓練に回していれば、今回の被害はどうだったろうか。（裕）

以上東京新聞特報部記事より

災害に強い流域にするには！！

ダムの有無にかかわらず、災害に強い地域にするには、先ずどんな危険があるかを把握することが大切です。豪雨の場合、**脊振地区では**土砂災害に嚴重な注意を払わなくてはなりません。H21の豪雨（時間当たりの最大雨量が65ミリ、3日間の累加雨量が611ミリ）では神埼市内だけで800カ所を超える土砂崩れや土石流が発生しました。今から150年以上前、倉谷、政所、広滝、服巻を山津波が襲いました。佐賀県災異誌によると「慶応二年六月二十三日（1866年8月3日）の夜 西は川上川 東は石動川に亘り脊振山を中心としての大雨は大洪水となり災害は西松梅村の下田、当郡では倉谷が最もひどかった。倉谷では所謂山潮で川頭から一面の大崩れとなり、村中に押し出し住家10余軒川底となった」とあります。風化花崗岩の地質なため、くずれやすいそうです。

激しい雨が降り出すと山の道路は竹や木が倒れて来たり、石が落ちていたり、車での移動が危うくなります。早めの避難が大切です。山の土砂災害に時間的余裕はありません。これはどこでも言えることですが、いざという時どこに避難するか、日頃から考えて地域で話し合っておくことが大切です。

また、各山間にある砂防ダムの堆砂状態も見ておかなければなりません。砂がいっぱいになってしまっている、など不安がある時は市等に相談するのも必要でしょう。

ハザードマップに記載されている土砂災害危険ヶ所は人家があるところを対象に作ってあるため、通ろうとする山道に記載がないからといって安全であるとはいえません。

中流域では、ため池にも注意が必要です。豪雨で溢れる、決壊する、ということもありますが、地震（城原断層、佐賀平野北縁断層が動いた場合M7.5）での決壊も考えられます。これらの水が押し寄せてくる場合の安全な避難場所も日頃考えておくべきです。また川の水より、平野に降った雨（内水）による浸水も考えられます。通り慣れた道でも、冠水により思わぬ危険な場所となります。また使える道路が限られてくるため、かなりの渋滞がおこります。また、城原川に約430トン/秒以上の雨水が流れると、治水の安全弁である霞堤や野越が機能し始めます。川の水がそれらの低い堤防

から溢れて平地にこぼれだします「H21年豪雨実績」。霞堤から流れ出た水は川の水位が下がればまた川に戻るよう作られていましたが、それを導く受け堤が無くなってしまっているため、内水と一緒にになってしまう可能性もあります。

野越から溢れた水はもともと川にはもどらない水です。そのまま流れていきます。ここもそれを安全に導く受け堤が取り払われているので、ただ低い方に流れていくと思われます。

H21年の豪雨を見ると、菅生橋前後の3番目、4番目の霞堤が初めに越流しました。その後5番（鶴西野越）が越流を始め次に1番が、というように越えました。2番の様子は掴んでいません。国の発表では5カ所が越流とあるので、どこかの時点で溢れたと思われます。この時はこの5カ所で20トン/秒ほど越流しましたが、その水が流れ込む田んぼは被害をうけませんでした。（下流の神陽団地あたりは漏水が起これ破堤の危機に見舞われましたが、これらの霞堤や野越は昭和38年に完成した河川整備のさいに、1.5mかさ上げされています。この嵩上げは大きな問題を含んでいます。その事については次号に記します）

大量の越流が起こった時はその水は東に向かって流れ下り始め、最終的には田手川に吸収されます。また、かつて9カ所の霞堤や野越は同じ時間に越流すると言われていましたが、そうではないことがわかりました。下流域にある5番目～9番目の野越は上の方の越流がどれくらいになって越え出すのかはよくわかりません。少なくとも下流になるほど（上流で越流しているため）越流しにくいようです。住宅団地パイピアの不安は、そばにある7号8号の野越だと思えます。この野越が溢れた時は、上流ではすでに大量に越流が起こっていると考えられます。しかし、それらの水がパイピアを脅かすことはなく、前述のように、東にながれて行くと思われます。ただし、道路などで東進を阻まれるとそれに沿って南下することになります。7号8号からの越流水はパイピア横を南北に流れる溝（昔のから川）を下ることになりますが、この溝が、数百m先で埋め立てられています。ここを掘り戻して下流に繋げることが、パイピアに水を入り込ませないために必要です。



7号8号下流に流れる水路



畑になっている から川（電柱の右）

野越はそばにある取水施設（樋門）をまもり、干満に影響されて排水がままならない下流域の負担を軽減します。そしてどこで破堤するかわからないという危険をコントロールできます。ダムの有無にかかわらず、これらのシステムを有効に活用することが今後の城原川流域の治水にはかせません。

ここからの水は最終的に黒津の排水機場にまで繋がって筑後川に排水されます。

その間**下流域では浸水**が問題になっています。筑後川の水位が高いと排水ができずポンプによる排水頼みとなりますが、上流の内水が押し寄せてくると長い間の浸水になります。

また、下流域は特に高潮に注意しなければなりません。城原川には水門がありませんから、有明海の水位がそのまま城原川にやってくるので、土手を越す程の水位になる可能性もあります。洗掘により堤防は壊滅的な状態になることも考えられます。

もともと城原川の下流域堤防は強度に問題があり、とくに西の堤防は幅が狭く、ひびが多く、一目で脆弱さがわかります。柴尾橋から南は東西両方とも脆弱です。堤防強化が早急に必要です。住民としてはいち早く川から離れ、避難する事が大切です。

この激しい気象状況をみていると、すべてを守るということは難しいことになってきています。せめて命は守る！という視点から考えると、やれることはたくさんあるはずですよ。

災害が起ころうとする前、つまり日常のうちに出来る限りの準備をしておくことが、災いをやり過ごす、またはその被害を小さくする秘訣のようです。

今回のダム放流について会員のメール

豪雨災害を住民の認識不足との印象操作？ がされているような不安な気持ちでいます。

死者5名をだした四国地整の記者会見で「受け取り側の住民の方が高い意識をもって認識してもらわないと」との発言には怒りを感じました。

ダム放流による水害が助長されたという一瞬のテレビ放映だったので、全文は聞き取れなかったのですが、認識しろ？ 何を？ ダムは 想定外は役に立たないということ？

今朝のNHK 日曜討論でもこりもせず藤井聡（内閣参与 防災 京大）氏は技術でもって100%防災は可能と発言。

自然災害には命を守る住民自らの行動がかかせません。しかし災害を人為的に甚大なものにしかねない、人命を守れない現在の河川行政において、何を認識しろというのでしょうか さらにハード整備をとっているのでしょうか。

第114回定例会資料

新聞記事

西日本新聞 記事

7/8 「二年連続貯水限界寸前 朝倉寺内ダム 「150年に一度の雨想定」でも
特別警戒 犠牲防げず 避難につながる伝達課題

佐賀新聞 記事

7/13 避難指示の細分化提案 初の特別警戒、動き鈍く 避難者 1 %

7/17 ハザードマップ 危険区域周知に遅れ

日本経済新聞

7/20 ダム放流周知を検証 愛媛下流氾濫で 9 人死亡

メールに抛る記事

「西日本の豪雨災害は、代々の自民党政権による人災」河川政策の専門家、嘉田由紀子
前滋賀県知事が指摘

- 城原川だより 76 号
- 平成 30 年 7 月豪雨経過報告（佐賀県）
- 学芸出版 川づくりをまちづくりに 「城原川」女性技術者の細やかな心配りが地域の
原風景を再生させた
- 世界 2018. 8-24 持続可能な山づくりに逆行しかねない「森林経営管理法」

今後の予定

第 116 回定例会 9 月 21 日（金）

神埼市中央公民館

第 117 回定例会 10 月 19 日（金）

千代田町福祉センター

第 118 回定例会 11 月 16 日（案）

参加費用（資料代） 200 円

月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日）

10：00～12：00

千代田町福祉センター

皆様のご参加お待ちしております

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神埼市千代田町境原 282-12

電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神埼市神埼町城原 1877-1

電話 0952-52-2827

Mail : teaho74@yahoo.co.jp

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

<https://ameblo.jp/jyoubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしお寄せ下さい。

文責 佐藤 悦子